

7
三宅喜二郎元大使寄贈史料
L 5 52 6、

※重複セリト雖モ、後日ノ
便子供ス

REEL No. A-1218

極秘

蘭領東インド

第二次世界大戦中ニ於ケル東印度ノ統治及
決定ニ關スル経緯

第二次世界大戦勃發前南印ヲ含ム南方占領地域ノ統治權ノ問
題ハ統帥部及政府内部ニ於テ種々研究サルトコロアリタルモ
外務省ハ當初ヨリ南印獨立ヲ重要視セリ南印上陸作戦開始直前
南方軍總司令部ハ作戦及占領後ノ施政ヲ籌画ナラシメンガ爲メ
「イゴン」及「ベンゴツク」ノ「ラジナ」ヲ利用シ「インドネシ
ヤ」民族自立ノ宣傳ヲ行ヒタルガ同時期ニ於テ、和蘭ハ流刑中
ナリシ「インドネシヤ」民族運動指導者「スカル」及「ハツタ
ノ兩氏」ヲ「シヤム」ヘ送還シ右ニ對シテ「インドネシヤ」國民
軍ヲ組織シテ日本軍ニ抵抗スヘキコトヲ囑フシ其代價トシテ東
印度地域ニ獨立ヲ許容スヘシトナシタルモ兩氏ハ之ヲ拒絶セル
経緯アリタルモノノ如シ日本軍ノ南印占領後東印度軍管周ハ後ニ
獨立聲明ノ行ハレタル「ビルマ」「フィリピン」ニ於ケルト同

外務省

A7.00 9-56
東印支那局
(係長 佐々木)

機之等民族主義者ヲ先頭ニ立テ「ジャワ」奉公會其他現住民ノ
對日協同組織ヲ設立セシムルト共ニ民族主義的傾向ヲ強化スル
カ如キ方向ヘ施政ヲ推進スルトコロアリタルガ當時「シンガポ
ール」ニ在リタル南方軍總司令部ヘ送ルニ之ニ抑壓セントスルノ
方針ヲ持シ中央ニ於テモ亦戦争遂行ノ爲メ資源獲得ニハ之ヲ直
轄領トシテ徹底セル政策ヲ採用スルノ外ナク獨立許容等ノ民族
解放政策ヘ之ヲ阻害スヘシトノ理由ニテ統帥部ハ東印度獨立ニ
強硬ナル反對ヲ主張セリ其結果昭和十八年一月四日大本營政府
連絡會議決定占領地關係案ハ「ビルマ」「フィリピン」ノミ
ノ獨立ヲ規定シ其他ニ關シテハ進テ定ムトナシタルガ次テ同年
五月三十一日御前會議決定ハ東印度地域ヲ帝國領土ヘ編入スヘ
キコトヲ決定シ現住民ノ民族ニ應ジテ政治參與ヲ認ムルカ如キ方
策ヲ取ルト共ニ聯合國側宣傳ニ乘セラレザル様本國會議決定ヲ發
表セザル事トセリ。本決定ニ關シ東條總理大臣ハ專口獨立論ニ

外務省

傾キ居リ外務省又獨立樂ヲ主張セルガ統帥部へ前送ノ如ク顯ナ
 ル反對論ヲ持シ又一部ニハ一度獨立ヲ許容セバ普圖トシテハ信
 義トシテ敢テ斷之ヲ尊重セザルヲ得ズ將來交渉平和等考慮サル
 ル場合困難ナル地位ニ立ツヘキヲ以テ現狀ノ儘ヲ可トスヘシト
 ノ見解モアリテ遂ニ領土編入ノ決定ヲ見タル次第ナリ

三、本決定ニ對シ現地軍當局へ頗ル不滿ナリシモ積極的ニ反對意見
 ヲ具申スルニ至ラズ又大東亞會議直後來訪セル「セカルノ」氏
 ハ東條總理大臣ニ對シ東印度地域ニ對スル獨立許容ヲ懇請セ
 ルモ東條總理大臣ハ何等確答ヲ與フルコトナクシテ會見ヲ終リ
 タルヲ以テ「セカルノ」氏ハ多大ノ失望ヲ拘キ「ジャバ」へ歸
 還セリ其後「ジャバ」軍政最高顧問タリシ林副政長官ハ現地軍
 最高指揮官トノ諒解ノ下ニ東京シ東印度獨立論ヲ持シテ關係方
 面ノ説得ニ努ムルトコロアリ重光外務大臣ハ之ヲ支持シテ前記
 三ノ意見更ノ努力ヲナシタルガ「小磯内閣成立ト共ニ東印度獨立

外務省

論ハ漸有リ化スルニ至レリ

即小磯内閣最初ノ戰爭指導會議ニ於テ「今歲採ルヘキ戰爭指導
 ノ方針」中ノ一項ニ於テ大東亞會議ニ於テ東印度獨立ニ關スル聲
 願ヲナスコトニ決定ヲ見ルカ其ノ経緯ヲ見ルニ當時太平洋方面
 ニ於テハ「マリヤナ」ノ防禦線崩壊シテ米國ノ攻勢急進化シツ
 ツアリタル際ニシテ新内閣トシテハ大東亞結束上何等カ新ナル
 政略上ノ手ヲ打タサルヲ得ザル情勢ニアリタル次第ニシテ外務
 省カ獨立論ヲ主張セルハ云フ迄モナキトコロナルガ陸軍中央モ
 亦陸軍軍政地境タリシ「ジャバ」「スマト」ニ於ケル民族意
 識ノ昂揚著シキモノアリ獨立問題ヲ不調難ナル情態ニ放置シテ
 ツ原住民ノ屬有ヲ確保スルコト新時局難トナリ居ルヲ以テ現地
 軍當局ノ要請ヲ容レ獨立論ニ賛意ヲ表スルニ至レリ。然レ其時
 軍側ハ依然トシテ強硬ナル反對意見ヲ持シ獨立政策ノ押進ニ對
 シ海軍軍政地境ノ關係ニ關スル限り全面的な確保ヲナシタルヲ以テハ

外務省

附屬一) 軍ニ議會ニ於テ小磯總理大臣ヨリ將東亞印度地域ノ獨立ニ關シ支授ヲナスヘキ旨ノ聲明行ハレタルニ止リ(附屬二) 獨立ニ關スル何等具體的方針ノ決定ヲ見ルニ至ラス
 三、其後戰局ハ更ニ惡化シ南方地域トノ海上交通ハ事實上杜情斷トナリタルヲ以テ現地ニ於ケル軍自活ノ爲ノ經濟的要求ハ増大シ「ジャバ」「スマトラ」ニ於テハ抽象的ナル獨立聲明ノミヲ以テシテハ原住民ノ人心把握ハ著シク困難トナレリ現地軍當局ハ暴ニ原住民政治參與ノ方針ニ基キ「ジャバ」ニ中央參議院ヲ設置セルモ右ハ單ナル施設ニ對スル諮問機關タルニ過キザリシヲ以テ獨立準備ノ爲ノ具體的方針ノ決定ハ無期ノ問題トナレリ
 他方英軍側モ「フィリピン」失陥後ハ南方放棄ハ既ニ現實化シ來リタルヲ以テ從來ノ反對論ヲ固持スルノ理由ヲ喪失シ昭和二十年初頭ヨリ東印度獨立問題ニ關スル外敵論ノ主張ハ漸次統一セラルルニ至レリ依テ五省關係官ノ間ニ付次ノ討論ヲ經テ

外務省

ル結果七月十七日最高指導會議ニ於テ「帝國ハ可及的速カニ東印度ノ獨立ヲ實現ス之カ爲直チニ獨立準備ヲ促進強化スルモトス」トノ決定ヲ見タルモ(附屬三) 及(附屬四) 其後一ヶ月弱ニシテ帝國ノ降伏トナリタルヲ以テ之カ實施ヲ見スレテ終レリ

外務省

附一

昭和一九、九、二

東印度獨立論策ニ關スル件 (關係省主務書案)

下方針

將來東印度ヲ獨立セシムル旨ヲ聲明シ以テ民心把握ニ資スルト
共ニ大東亞政策ヲ中外ニ開明ス

三要領

一 將來東印度ヲ獨立セシムベキ旨臨時議會ニ於テ聲明ス

二 獨立セシムベキ地域ハ舊南領印度(「ニューギニア」ヲ除ク
ト豫定ス(海軍關係)

三 獨立ノ形態及範圍トノ關係ハ別ニ定ム

但シ範圍ノ要請ヲ十分達成スル如ク措置ス

各獨立ノ時期ハ住民ノ政治能力向上ノ狀況等ヲ勘案シ別ニ定ム
ルモ過早ナル獨立實施ハ之ヲ避ケ

尙全地域ヲ同時ニ獨立セシムベキヲ逐次獨立セシムベキヤハ

外務省

願一

昭和一九、九、二

東印度獨立施策ニ關スル件 (關係省主務者案)

二、方針

將來東印度ヲ獨立セシムル旨ヲ聲明シ以テ民心把握ニ資スルト
共ニ大東亞政策ヲ中外ニ闡明ス

三、要領

1. 將來東印度ヲ獨立セシムベキ旨臨時議會ニ於テ聲明ス

2. 獨立セシムベキ地域ハ舊蘭領印度(「ニューギニア」ヲ除ク
ト豫定ス(海軍留保)

3. 獨立ノ形態及帝國トノ關係ハ別ニ定ム

但シ帝國ノ要請ヲ十分達成スル如ク措置ス

4. 獨立ノ時期ハ住民ノ政治能力向上ノ狀況等ヲ勘案シ別ニ定ム
ルモ過早ナル獨立實施ハ之ヲ避ク

尙全地域ヲ同時ニ獨立セシムベキヤ逐次獨立セシムベキヤハ

當時ノ状況ニ依リ之ヲ定ム
「ジャワ」ニ於テハ住民ノ創意ヲ尊重シツツ左記ニ準據シテ
措置ス
イ、荷屬政府ノ聲明ニ即應シ速ニ之ガ趣旨ノ徹底ヲ圖ル
ロ、軍政ノ現状ハ急激ナク變化ヲ避ケルモ住民ノ政治參與ヲ
更ニ強化擴大シ且ツ其ノ政治的訓練ヲ行フ
ハ、或ルベク速ニ現地住民ノ行フ獨立ニ必要ナル事項ノ調査
研究ヲ要ム
ニ、從來禁止シアル「インドネシア」歌及「インドネシア」
旗ノ使用ヲ許容ス
ム、他ノ各地域ヘ其ノ實情ニ即應シ爲シ得ル限り前項ニ準ジタル
措置ヲ採ルモノトス（海軍、警保）

外務省

附屬二 總理大臣議會聲明

次ニ東印度等ニ於キマシテハ、帝國ハ昨年原住民ノ念願ニ基キ、
原住民ノ政治參與ニ關スル措置ヲ採ツテ參ツタノデアリマスルガ
此ノ間此等各地ノ原住民ハ、克ク帝國ノ眞意ヲ解シ、終始一貫、
大東亞戰爭完遂ノ爲、多大ノ努力ヲ續ケテ參ツタノデアリマシテ
現地軍政ニ對スル協力亦洵ニ見ルベキモノガアリマス。此ノ實狀
ニ鑑ミマシテ、帝國ハ東印度民族永遠ノ福祉ヲ確保スル爲、獨立
ノ準備ヲ進メ、將來其ノ獨立ヲ認メントスルモノナルコトヲ、茲
ニ聲明スルモデアリマス。

外
務
省



附屬二 總理大臣該旨聲明
 次ニ果印度等ニ於キマシテハ、帝國ハ昨年原任氏ノ急頓ニ悲キ、
 原任氏ノ政治參與ニ歸スル宿望ヲ採ソテ夢ソクノデアリマスルカ
 此ノ向此等各意ノ原任氏ハ、兎ク帝國ノ眞意ヲ解シ、終始一貫、
 大東亞取等完遂ノ爲、多ク勞力ヲ献ケテ夢ソクノデアリマシテ
 現地軍政ニ對スル協力ヲ爲シタルベキモノカアリマス。此ノ實狀
 ニ鑑ミマシテ、帝國ハ東印度兵隊ハ返ノ職任ヲ確保スル爲、獨立
 ノ準備ヲ速メ、將來兵ノ獨立ヲ認メントスルモノナルコトヲ、以
 ニ聲明スルモノデアリマス。



「東印度獨立措置ニ關スル件」外務大臣説明資料

昭和二十年七月十七日

一、東印度ニ於テハ爾頃時代ヨリ熾烈ナル獨立運動アリ、「インドネシヤ」人ノ爲ノ「インドネシア」ハ彼等獨立運動者ノ熱烈ナル要望ナル處、大東亞戰爭勃發シ我軍ノ東印度戡定成ルヤ之等先覺者ハ何レモ獨立ノ好機至レリトノ期待ノ下ニ我方ニ全面的協力ヲ爲シ、或ハ中央參議院議員トシテ、或ハ各洲地方機關ノ官吏又ハ議員トシテ、活動シ其ノ成果見ル可キモノアリ、他面一昨年十一月大東亞共同宣言ノ發出アリ、大東亞各國ノ自主獨立ヲ尊重スル帝國ノ大方針宣明セラレ、同時ニ「ビルマ」、「フィリピン」ノ獨立、自由印度假政府ノ成立アルヤ、東印度ニ於テモ獨立運動者ノ希望ハ一層促進セラレタル次第ナルカ、帝國トシテモ大東亞宣言ノ趣旨ヲ貫徹シ、又東印度住民ノ我方ニ對スル協力ト期待ニ報ユル爲ニモ、東印度ノ獨立問題ニ關シ

外務省

「東印度獨立運動ニ關スル件」外務大臣説明資料

昭和二十年七月十七日

一、東印度ニ於テハ、戦時代ヨリ熾烈ナル獨立運動アリ、「インドネシア」人ノ爲ノ「インドネシア」ハ彼等獨立運動者ノ熱烈ナル要求ナル處、大東亞戦争初發シ我軍ノ東印度既定版ルヤ之等先覺者ハ何レモ獨立ノ好談ヲレリトノ期待ノ下ニ我々ニ全面的協力ヲ爲シ、或ハ中央參議院議員トシテ、或ハ各洲地方機関ノ官吏又ハ議員トシテ、活動シ其ノ成果見ル可キモノアリ、他國一昨年十一月大東亞共同宣言ノ發出アリ、大東亞各國ノ自主獨立ヲ尊重スル帝國ノ大方針宣明セラレ、同時ニ「ビルマ」、「フィリピン」ノ獨立、自由印度假設府ノ成立アルヤ、東印度ニ於テモ獨立運動者ノ希望ハ一層促進セラレタル次第ナルカ、帝國トシテモ大東亞宣言ノ趣旨ヲ貫徹シ、又東印度住民ノ我々ニ對スル協力ト期待ニ報ユル爲ニモ、東印度ノ獨立問題ニ關シ

何等カノ意思表示ヲ爲スコト適當ト思料セララルニ至レリ。依テ前内閣ニ於テハ客年九月五日最高戦争指導會議ニ付議シタル上、九月七日第八十五臨時議會ノ施政演說ニ於テ小磯前總理ヨリ、「帝國ハ東印度民族永久ノ福祉ヲ確保スル爲メニ將來其ノ獨立ヲ認メントスルモノナル」旨聲明シ、以テ本問題ニ對スル帝國ノ意圖ヲ明白ナラシメタリ。尤モ九月五日ノ最高戦争指導會議ニ於テハ右聲明ヲ議會ニ於テ爲スコトヲ決定セルノミニシテ、獨立ヲ許容スヘキ地域ニ關シテハ「ジャワ」及「スマトラ」ニ付テハ問題ナキモ爾餘ノ地域ニ付テハ明白ナル決定ヲ見ス、唯從來禁止シ居リタル「インドネシア」歐及「インドネシア」旗ノ使用ヲ許可シ、又任民ノ政治參與ヲ強化擴大シ、現地住民ヲシテ獨立ニ必要ナル事項ノ調査研究ヲ爲サシムルコトトナレリ。

二、右帝國政府ノ聲明ニ呼應シ、「ジャワ」ニ於テハ獨立調査委

外務省

員會設立セラレ、「スマトラ」「セレベス」等ノ地域ニ於テモ現地住民政治參與強化ノ措置カ執ラレ、所要ノ準備進歩中ナルカ、客年九月七日ノ聲明ニハ唯「將來其ノ獨立ヲ認メントスルモノナル」旨述ヘアルノミニテ其ノ時期ハ明示シアラサル處、獨立ヲ約束シ乍ラ之カ實現ヲ長ク不安定ノ儘放置スルコトハ帝國ノ誠意ニ付疑念ヲ起サシムルノ虞ナシトセス、殊ニ敵ノ反攻カ既ニ東印度ノ一角ニ及ヒツツアル今日現地住民ノ對日協力ヲ愈々積極化スル必要ヨリ云フモ、此ノ際客年ノ聲明ヲ更ニ具体化シ、獨立ノ時期ヲ明定シ之ヲ中外ニ發表シ、以テ大東亞自主完整ニ對スル帝國ノ眞摯ナル意圖ヲ宜明スルノ要アリ、敘上ノ見地ヨリ今回別案ノ如キ決定ヲ爲サントスル次第ナリ。

三、次ニ決定案ニ付若干説明スヘシ。

(一) 要領一、ニ付

東印度ノ民度ハ各地域ニ依リ一様ナラス、最モ民度高ク實質

外務省

上モ獨立ノ資格ヲ具備スルハ勿論「ジャワ」ニシテ爾餘ノ地
域ハ必スシモ直ニ獨立ノ資格ヲ有スルトハ認メ得サルモノア
リ、從テ此ノ際先ツ「ジャワ」ノミニ獨立ヲ許容シ爾他ノ地
域ハ更ニ其ノ實質ノ完備ヲ俟テテ獨立セシムヘシトノ論モア
リ得ヘキ處、從來東印度ノ獨立ヲ首唱シ來レル所謂獨立運動
者ハ當ニ爾領東印度ヲ一体トシテ考ヘ居リ之ヲ一体トシテ獨
立セシメント要望シツアルモノニシテ、此ノ際「ジャワ」
ノミヲ切離シテ獨立セシムルコトハ彼等ヲ失望セシメ折角ノ
效果ヲ半減スルノミナラス或ハ帝國カ爾餘ノ地域ニ付何等カ
野心アルニ非サヤトノ疑念ヲ生セシムルノ惧ナシトセス、依
テ此ノ際獨立セシムヘキ地域ハ舊蘭印全部ナル旨ヲ明ニスル
ヲ可トスル次第ナリ。又本項ハ獨立セシムヘキ地域ハ舊蘭印
ニシテ英領「マライ」及北「ボルネオ」ヲ含マサルコトヲ意
味スルモノナル處、之等地域ハ地理的ニハ舊蘭印ト近接スル

外 務 省

モ從來ノ歴史的傳統ニ於テハ全然別個ノ存在タリシモノニシ
テ之ヲ舊蘭印ト一括シテ獨立セシムルコトハ不適當且不必要
ナリト思考シテ之ヲ除外セル次第ナリ。

(二) 要領二、ニ付

第一項ハ主要地域即チ「ジャワ」「スマトラ」等ノ獨立準備
完了セル際ハ獨立セシムヘキ地域トシテ定メラレタル舊蘭印
全地域ニ亘リ新國家ノ獨立ヲ宣言セシムルコトヲ意味スルモ
ノナリ。或ハ準備完了セル地域ヨリ先ツ獨立セシメ、爾他ノ
地域ニ付テハ其ノ準備完了スルヲ俟テ逐次之ヲ新國家ニ參加
セシムル方法モ考ヘ得ヘキモ、右ノ如キ方法ハ前述舊蘭印全
部ヲ一体トシテ考フル所謂「インドネシア」獨立運動者ノ誤
解ヲ招ク虞アルノミナラス、爾他ノ地域ヲ準備完了次第新國
家ニ編入スル際ノ法理的説明ニモ困難アリ、寧ろ主要地域ノ
準備完了次第全地域ニ亘ツテ一齊ニ獨立宣言ヲ爲サシムルヲ

外 務 省

適當ト考フル次第ナリ。而シテ未タ準備完了セサル地域ニ付テハ一應之ヲ新國家ノ領域トスルモ、依然我方ノ軍政ヲ繼續シ、準備完了ヲ俟テ逐次之ヲ新國家ニ移管セントスル次第ナリ（第二項）。

第三項ニ所謂獨立準備委員會ハ全地域ニ亘ル獨立準備ノタメノ委員會ナルモ新國家ノ中心ハ結局「ジャワ」ニシテ、又現在準備進捗状況モ「ジャワ」カ最も進ミ居ルヲ以テ、便宜上獨立準備委員會ハ之ヲ「ジャワ」ニ設ケントスルモノナリ。勿論「ジャワ」以外ノ地域ニ於テモ右獨立準備委員會ノ準備進捗状況ニ呼應シテ獨立準備ヲ促進スヘキコトハ當然ナリ。又「ジャワ」ニ設立セラルヘキ獨立準備委員會ハ全地域ノ獨立ヲ準備スルモノナルヲ以テ當然各地域ヨリノ代表者ノ参加ヲ豫想スルモノナル處、或ハ現下ノ交通狀況ヨリシテ東印度各地ヨリ代表者ヲ「ジャワ」ニ派遣スルコトハ困難ナリトモ

外務省

思考セラルル處、右ノ如キ場合ニ於テハ「ジャワ」ニハ東印度各地ノ代表的人物居住スルヲ以テ之等ヲシテ代理セシムルコトヲ考慮シ得ヘシ。

（三）要領三、ニ付

新國家獨立ノ時期ハ方針ニモ明示シアル通り可及的之ヲ速クナラシメ度キ所存ニシテ現地ニ於ケル準備ノ都合ハアルヘキモ戦局ノ状況竝ニ國際情勢ニ鑑ミ遅クモ今年秋ニハ實現セシムル必要アリト認め居レリ。而レトモ急速度ニ展開スル國際政局ニ對處スル爲ニハ獨立ノ豫定時期ヲ速ニ概定シ新國家ノ領域タルヘキ地域ト共ニ之ヲ發表スルコト適當ニシテ尙本件發表ヲ我方ニ於テ之ヲ爲サス、獨立準備委員會ヲシテ爲サシムルコトトセル趣旨ハ本件新國家ノ獨立カ我方ノ指導乃至示唆ニ基クモノトノ形ヲ執ラス飽ク迄モ東印度民族ノ目的的發意ニ基クモノナリトノ自然發生的形ヲ取ラシムルヲ適當トス

外務省

ルニ出ツルモノナリ。

四 要領四、ニ付

本項モ前項ト同ジク新國家ノ獨立ヲ東印度民族ノ目發的發意ニ基クモノトスル趣旨ニ出ツルモノニシテ「民意ニ依リ之ヲ定ム」トハ具體的ニハ獨立準備委員會ヲシテ之ヲ決定セシムルコトニ依リ達セラルルモノト考ヘ居レリ

(終)

外務省

最高戦争指導會議決定第二十七號

昭和二十年七月十七日

東印度獨立措置ニ關スル件

第一、方針

大東亞戦争完遂ニ資スル爲帝國ハ可及的速カニ東印度ノ獨立ヲ容認ス、之カ爲直チニ獨立準備ヲ促進強化スルモノトス

第二、要領

- 一、獨立セシムベキ地域ハ舊領東印度トス
 - 二、全地域ニ亘リ獨立準備ヲ推進シ主要地域ノ準備完了次第全地域ニ亘リ新國家ノ獨立ヲ宣言セシム但シ準備完了セザル地域ノ施政ニ關シテハ準備進捗ノ狀況ニ應ジ逐次之ヲ新國家ノ管轄ニ移行セシムル如ク措置ス
- 之カ爲速カニ「ジャワ」ニ獨立準備委員會ヲ組織シテ獨立實施ニ必要ナル諸般ノ事項ヲ準備セシム

外務省

最高戦争指導會議決定第二十七號

昭和二十年七月十七日

東印度獨立措置ニ關スル件

第一、方針

大東亞戦争完遂ニ資スル爲旨國ハ可及的速カニ東印度ノ獨立ヲ容認ス、之ガ爲直チニ獨立準備ヲ促進強化スルモノトス

第二、要領

- 一、獨立セシムベキ地域ハ首領東印度トス
 - 二、全地域ニ直リ獨立準備ヲ推進シ王位地域ノ準備完了次第全地域ニ直リ新國家ノ獨立ヲ宣言セシム但シ準備完了セザル地域ノ施設ニ關シテハ準備進捗ノ状況ニ應ジ逐次之ヲ新國家ノ官制ニ移行セシムル如ク措置ス
- 之ガ爲速カニ「ジャワ」ニ獨立準備委員會ヲ組織シテ獨立實施ニ必要ナル諸般ノ事項ヲ準備セシム

- 三、獨立ノ豫定期限ハ成ル可ク速カニ之ヲ概定シ新國家ノ領域タルベキ地域ト共ニ獨立準備委員會ヨリ之ヲ發表ス
- 四、新獨立國ノ國體、政體、國名、國民ノ範圍等ニ關シテハ民意ニ依リ之ヲ定ム
- 五、獨立ニ關スル施策ヲ進ジ住民ノ民族意識ノ昂揚ニ努メ且戰爭遂行ニ寄與セシムルヲ主眼トシ作戰、戰備上ノ支障ハ極力之ヲ防止スル如ク措置ス
- 六、本施策ノ現地ニ於ケル實行ハ一切之ヲ現地軍ニ一任ス